

報恩講

日時：令和6年12月13日（金）～16日（月）

場所：大分県宇佐市四日市別院

ご講師：大江 憲成師（大分県中津市観定寺ご住職）

12月14日（土）四日市別院にて師走の晴天のもと、報恩講が勤められました。私は、スタッフとして朝から夕方まで参詣させていただきました。その時私が聞いた内容を書かせていただきます。

ご法話で先生は、仏法は図書館ではなく（知識として学ぶものではない。）地べたにあり、師あり、友あり、その方々と学んでいくものではないでしょうか。その歴史が、現在にまで至ります。そして、報恩講を勤める原点は、第三代の覚如上人が著した報恩講私記にあるとのことでした。

教えを聞いてこられた方の生き方や姿勢を通して、今ここに伝わってきていることの不可思議さを感じました。



『御伝鈔』の拝読

親鸞聖人から数えて三代目覚如上人が、聖人の遺徳を讃仰するために、その生涯の行蹟を数段にまとめて記述された詞書き。